

# 市場秩序論序説：歴史学と経済学

原 洋之介

以下の手順で、市場の関係論的秩序の問題を、正統派経済学の批判的検討を通して考察していきたい。

## 1. 資本主義と市場経済

### 1) ブローデルの問題提起

- ・15世紀から18世紀にかけて起こりつつあった経済機構は、自分に名前が欲しいと泣きさげんでいた。仕組を仔細に吟味してみると、それは通常の意味での市場経済という言葉の枠組の中に押しこめることがほとんど馬鹿げていることがわかる。ひとつの言葉が直ちに頭に浮かんでくる「資本主義」という言葉が [Afterthoughts on Material Civilization and Capitalism]。
- ・明瞭で透明でさえある現実にもとづいて、経済学を構成する言説が創造された。こうして経済学は、早くも出発点において、ほかのもろもろの光景を排除しつつ、特に恵まれた光景のなかに閉じこもった [『物質文明・経済・資本主義』]。

### 2) 何故、資本主義を論じるのか

- ・古典派以降の特に新古典派の経済学は、均衡論それも市場均衡論だけを対象としてきた。正統的経済学は、静的な安定にむかう経済交換・取引の仕組みだけを対象としてきた。もう少し強くいうと、それだけに課題を限定してしまった [To be taken seriously within the economists' guild, every idea should be modeled mathematically]。
- ・経済とは、基本的に動くもの、不均衡なものである。経済を動かす力、ないし不均衡を生み出す力に名前をつける、資本主義という名前を。
- ・経済過程とは、一方で不均衡が常に作り出され、他方でその変化を終息させる力も作用している複雑なプロセスである。
- ・新古典派では、資本主義はアダム・スミスの市場のかけに隠れており、マルクス学派では市場が資本主義のかけに隠れている。

### 3) 貨幣論

- ・貨幣とは、「社会という身体の血液」である。その機能は、対立する要素を含んでいる。
- ・単純交換：異なった使用価値財の交換が目的で、貨幣はあくまで交換の手段ないし計算単位としてしか位置づけられていない。
- ・資本主義的交換：資本蓄積が目的での交換。利潤・富を蓄積する形態としての貨幣が

前提とならざるをえない。価値貯蔵手段としての貨幣。

- ・古典派・新古典派の経済学は、支払・交換手段としての貨幣に注目し、セイの法則を前提とする。これに対して、マルクス、ケインズの経済学は、価値貯蔵手段としての貨幣に注目し、セイの法則を否定する。

補 . アジア経済危機の後で

- ・資本主義の寄生性、投機性、不安定性
- ・経済的諸関係を組織化するものとしての貨幣
- ・貨幣のヒエラルキー：グローバル貨幣とローカル貨幣

## 2 . 市場秩序論

### 1 ) 市場・市場経済の定義

- ・市場：貨幣を媒体として、モノの売り買いの相対交渉・取引がおこなわれる仕組み
- ・市場経済：社会の大部分の経済活動が市場を通しておこなわれる経済システム：需要と供給のマス化、交換される財の再生産、そしていくつもの市場の間でおこなわれるある種の交渉

### 2 ) 商人論

- ・市場は、神の「見えざる手」として存在するものではない。「商品の番人」たる商人が、自らが利得をあげようとする「資本主義的」活動のなかで、作りあげられてくるものである。
- ・市場・市場経済の発達の経路は、決して一義的ではない。それは、歴史に依存した軌道をたどる。
- ・ブローデルによる公的市場と私的市場という区分・類型

### 3 ) 「ひとつの恵まれた光景」としての自律的市場という虚構

- ・「需要と供給の対立の結果として価格が調整される仕組み」というアダム・スミス以来の市場観

受動的合理性だけの経済主体

孤立系：Rational Fools

### 4 ) 社会関係と個人：非協力ゲーム論の可能性

- ・個人間の外部依存関係、意思決定の相互依存性
- ・複数のナッシュ均衡の束から、あるひとつのタイプの均衡がえられる要因：history,

expectation, belief

5) 市場秩序の類型：Avner Greif の Historical Institutional Analysis

- ・ 秩序維持の2つの原理：個人的懲罪戦略対多角的懲罪戦略
- ・ 市場取引の2つの類型：匿名性と有名性
- ・ 市場秩序の文化信念依存性

引用文献

青木昌彦、「経済学は制度をどう見るか」大山・西村・吉川編『現代経済学の潮流、1996』東洋経済新報社、1996

岡崎哲二、『江戸の市場経済：歴史制度分析からみた株仲間』講談社、1999

岸本美緒、「時代区分論」『岩波世界歴史1：世界史へのアプローチ』岩波書店、1998

西部邁、『ソシオ・エコノミックス』中央公論社、1975

原洋之介、『開発経済論』岩波書店、1996a

原、『アジア・ダイナミズム：資本主義ネットワークと発展の地域性』NTT出版、1996b

古田元夫、「地域区分論」『岩波世界歴史1：世界史へのアプローチ』岩波書店、1998

濱下武志、「序章」『シリーズ世界史への問い3：移動と交流』岩波書店、1990

村上泰亮、「期待の政治経済学への序説」福地・村上編『日本経済の展望と課題』日本経済新聞社、1985

Akerlof, George, "The Economics of Caste and the Rat-Race and other Woeful Tales", *The Quarterly Journal of Economics*, Nov. 1976

Aoki, Masahiko, H.K.Kim and Masahiro Okuno-Fujiwara, "Beyond the East Asian Miracle: Introducing the Market-Enhancing View", M. Aoki et al. eds. *The Role of Government in East Asian Economic Development: Comparative Institutional Analysis*, Oxford University Press, 1996

Arrow, Kenneth, "Methodological Individualism and Social Knowledge" *The American Economic Review*, 84, 1994

Bardhan, Pranab and Christopher Udry, *Development Microeconomics*, Oxford University Press, 1999

Chaudhri, K. N., *Trade Civilization in the Indian Ocean: An Economic History from the Rise of Islam to 1750*, Cambridge University Press, 1985

Greif, Avner, "Cultural Beliefs and the Organization of Society: A Historical and Theoretical Reflection on Collectivist and Individualist Societies" *The Journal of Political Economy*, 1994a

Greif, A. "On the Political Foundations of the Late Medieval Commercial Revolution: Genoa during the Twelfth and Thirteenth Centuries", *The Journal of Economic History*, 1994b

Greif, A. "Microtheory and Recent Development in the Study of Economic History" Kreps and

- Walls, eds, *Advances in Economics and Econometrics: Theory and Applications*, Cambridge University Press, 1997
- Hicks, John R., *A Theory of Economic History*, Oxford University Press, 1969
- Hicks, *Economic Perspectives: Further Essays on Money and Growth*, Oxford University Press, 1977
- Keightley, D.N., “Early Civilization in China: Reflections on How it became Chinese”, R.S.Ropped. *Heritage of China*, University of California Press, 1990
- Krugman, Paul, *Development, Geography, and Economic Theory*, Massachusetts Institute of Technology, 1995
- Lal, Deepak, “India and China: Contrast in Economic Liberalization” *World Development*, vol.23, No9, 1995
- Landes, David, “Richard T. Ely Lecture” *The American Economic Review*, May 1990
- North, Douglass, *Institutions, Institutional Change and Economic Performance*, Cambridge University Press, 1990
- Okuno-Fujiwara, Msahiro, “Toward a Comparative Institutional Analysis of the Government – Business Relationship” M. Aoki et al eds, 前掲書、1996
- Sen, Amartya K., “Rational Fools: A Critique of the Behavioural Foundations of Economic Theory” *Philosophy and Public Affairs*, 1977
- Sen, *Inequality Reconsidered*, Clarendon Press, 1992
- Solos, George, *The Crisis of Global Capitalism*, Public Officers, 1998
- Todd, Emmanuel, *L'illusion Economique*, Editions Gallimard, 1998